

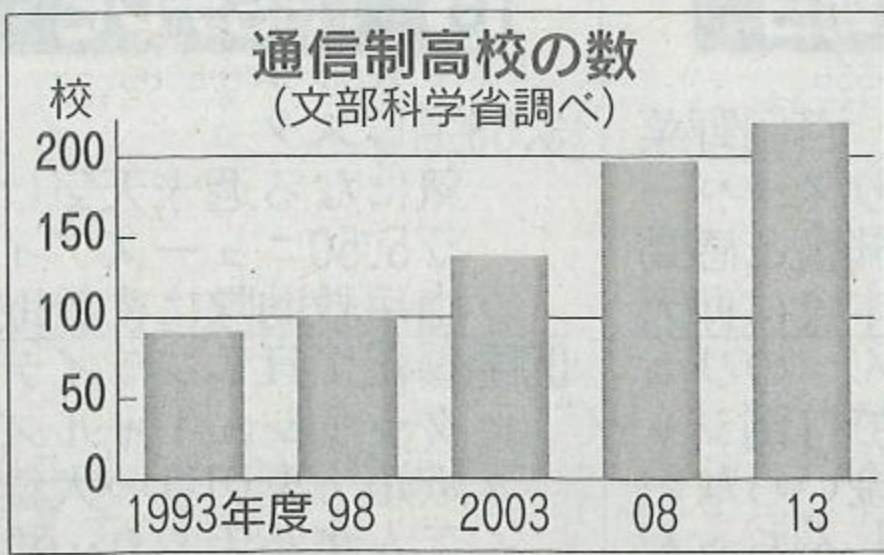
学校を中退したり不登校になったりした子供の学び直しを後押しする環境が整い始めた。自宅と校舎のどちらでも授業を受けられる通信制高校が全国に広がり、受け皿となる専門の高校を開設する自治体も増えている。いったん登校をあきらめた生徒の進学率も上昇しているようだ。

### 卒業生が京大に

JR立川駅（東京都立川市）近くの4階建てビル。3、4階部分に入る通信制の第一学院高校立川キャンパスには約100人の生徒が在籍する。

授業は録画した映像を生徒が自宅で視聴する形式のほか、通常の高校と同じ対面型もあり、どちらを選択するかは生徒の自由。11月中旬の同校では生徒が現代文の授業に出席したり、自習室に1人座ってノートにペンを走らせたり。フリースペースで教員と談笑する姿もあった。

都立高に通っていた松本宗希さん（18）は1年生のころ、友人とのトラブルが原因で不登校になった。5カ月間、自宅に引きこもった末に高校を中退。改めて学び直そうと考えて、昨年5月に第一学院高校に再入



# 学び直して大学へ

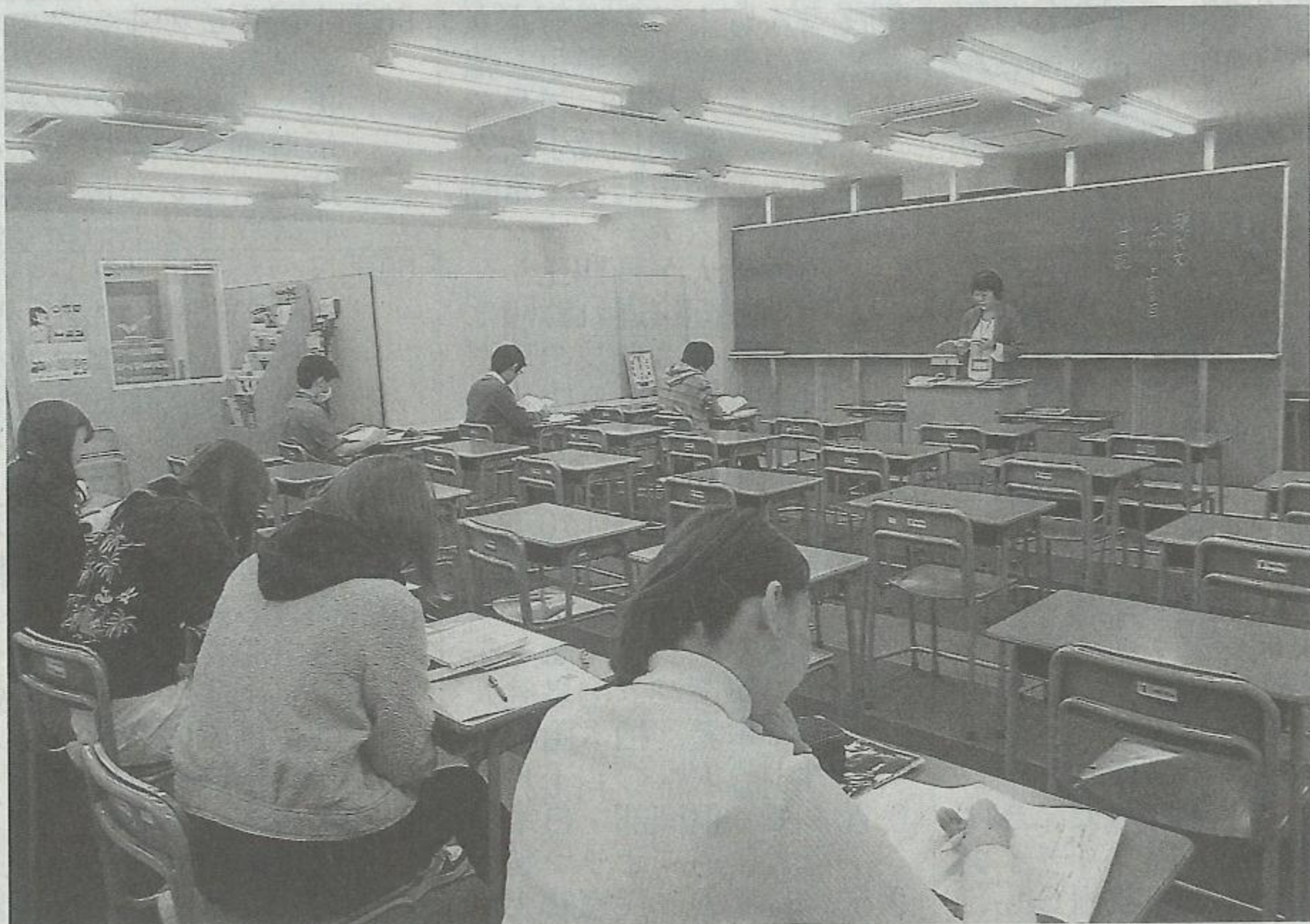
学した。「自分のペースで授業を組めるので勉強しやすい」と話し、将来は心理学科のある大学に進学、カウンセリングの仕事に就くのが夢だ。

(41)は「中学校の内容を復習するための教材を用意したり、一人ひとりの学力にあったカリキュラムをアドバイスしたり、一度挫折した生徒でも勉強を再開しやすい環境が整うよう心がけている」と話す。

2013年度時点で全国に221校あり、20年前と比べ2倍以上に増えた。

## 授業家でも校舎でも 通信制広がる

### 不登校や高校中退経験者



第一学院高校立川キャンパスでの授業（17日、東京都立川市）

## 不登校問題なお深刻

### 昨年度、小中学生12万人

児童生徒の不登校問題は深刻な状況だ。文部科学省によると、「不登校」を理由に30日以上欠席した小中学生は2013年度で約12万人。前年度より約7千人増えており、増加は6年ぶりとなった。同省はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員を進め、児童生徒に向き合う体制作りを進めている。

高校への再入学を促そうと、09年度から入試で学力試験を実施しない「クリエイティブスクール」として県立高校3校を指定したのは神奈川県。大阪府も同様の高校を03年度以降、6校設置した。

### 進学率は3倍に

不登校の生徒に学校以外で過ごす場所を提供する「フリースクール」も年々増え、NPO法人「フリースクール全国ネットワーク」によると、全国300〜400校ある。ただ、フリースクールの中には、自治体の補助などを受けられず、財政的に厳しい運営を強いられるスクールも多い。全国ネットワークの奥地圭子代表理事（73）は「子供や保護者からのニーズは年々高まっている」と指摘している。

各自自治体も学び直しに向けた取り組みを進める。東京都は00年度以降、不登校や高校中退を経験した生徒を受け入れる「チャレンジスクール」を5校開設した。志望者は増加傾向で、うち1校の都立世田谷泉高校の橋本昇校長（60）は

文部科学省が06年度に不登校だった当時中学3年の生徒の5年後の進路を調べたところ、大学進学率は19%で、前回1993年度の調査の6.6%から3倍近くに伸びた。同省担当者は